Ochanomizu Bible Institute
OBI
お茶の水聖書学院
NEWS

〒 101-0062
東京都千代田区神田駿河台 2-1
OCC ビル 2F
TEL 03-3296-1005
FAX 03-3296-4641
e-mail　office@obi-net.com
Web　http://www.obi-net.com
お茶の水聖書学院
お茶の水聖書学院後援会

創立二十周年を迎えるＯＢＩ

お茶の水聖書学院学院長
増田誉雄

「見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。」（イザヤ書四三章十九節）

常に新しい事をなさる主の聖名によってご挨拶申し上げます。

今年は、「創立二十周年」となるお茶の水聖書学院が歩んで参りました道を顧みて、主に感謝し、荒野に道を、荒地に川を設ける主にこれから後の導きをお委ねしたく思います。

一九七〇年代

「時期尚早」ＯＳＣＣと呼ばれていた時代のこと、センターの使命としての教育活動が当時の理事長羽鳥明師によって提案されました。時代を先取りするビジョンでした。しかし、歴史的環境は未だ熟せずで、やがての時を待つことになりました。

一九八三年七月

南館の建築完了と共に「教育部」設置。当時、教会成長運動によって強調された信徒活動によって主に仕え、教会に仕える使命の実践として「レイマンリーダーシップ・セミナー」開講。初年度には、一二〇名からの登録者を与えられ、新しい時代の到来を体感したことでした。

一九九一年四月

盛況であったセミナーも徐々に減少。その点を厳しく評価し断念を考えるまでになりました。その時、摂理的にセミナー・プログラムの中で奉仕された、ベリー・ロス博士が、「お茶の水聖書学院」構想を提案したのでした。駅の交差点での立ち話から始まったこの構想は、北館完成（三月）という時宣を得て、当時の理事長故本田弘慈師をして「新しいスタート、……宣教への訓練の備え、……聖書学院を創設、……長年の祈り、……今日、その実現を見たのです。」と言わしめるに至ったのでした。そして、四月二十二日の開講式には、バイオラ大学学長、クライド・クック博士を迎えての歴史的講演会がなされたのでした。正に、新しい事の始まりでした。

二〇〇一年四月

バブル経済が崩壊した余波を受けて、ＯＢＩが自立することになりました。「新生ＯＢＩ」は「アドナイ・イルエの信仰」のもとに新しい組織・構想が生まれ、新しい主の不思議なみわざを頂いて参りました。

二〇一〇年を迎えて、「アドナイ・イルエの信仰」のチャレンジは続きます。新年の未知なる道は、主の「不思議」を信仰をもって期待し、また、主がわたしたちのために立てておられるご計画を共に発見・共有していく旅とさせていただきたく思います。

栄光在主！

行事報告

第三回ボーマンコンサート

10月6日（火）午後6時半から三回目を迎えたOCC／OBI共催による秋のボーマン・コンサートが行われた。

毎回ながら聴衆はボーマン氏のチェロと、るり子夫人のピアノのハーモニーにすっかり魅了され、音楽の世界に浸る喜びを味わった。

参加者は平日の夜にもかかわらず71名。リピーターも多くおられこのコンサートが定着してきた事を知らされた。たいへん祝された時であった。

クリスマス感謝会

12月10日に、恒例のクリスマス感謝会が行われた。プログラムはいつものように会衆賛美と聖書朗読と特別賛美のページェントであるが、先生方、在校生、卒業生が一堂に会することはめったにないだけに喜びはひとしおであった。

卒業生のお一人は遠く仙台から駆けつけてくださった。OBIならではの光景である。増田師の霊想に満ちたご挨拶は創立以来欠けたことがない。お元気なのがなによりうれしく感謝である。

今年のデボーションは卒業後牧師になられた戸川偕生師が導いてくださった。最後に灯を消してきよしこの夜を賛美した。ベツレヘムの家畜小屋にいるような思いになった。ご降誕の主にハレルヤ！

（三浦喜代子記）

創立20周年　準備状況報告

◎記念誌委員会から　中島總一郎

すでに会議を数回持ち、皆様の心に深く残る記念誌ができ上るように鋭意進めています。

記念誌では、歩みの回顧や写真で綴る20年、卒業生、在校生による学び舎OBIを語るなどを中心に、祝辞、年表、年度別学習カリキュラム、期別卒業生名簿と写真なども載せ《感謝、感激、感動》をA4版160ページに表したいと検討を重ねています。

皆様からのOBIに関する過去、現在、未来を語る原稿も、次々に寄せられております。続いてお寄せくださいますようにお願いします。2月末までに入力を終わらせたいと願っています。

◎式典委員会から　世良田湧侍

記念感謝会の内容を検討しています。同窓生委員の皆様のご協力を頂きながら、すべての備えが整えられていくことに奉仕の喜びを覚えております。

現在までに以下のように話し合われております。

1）開催日・10月25日（月）午後
2）会場・OCCチャペル
3）来賓予定・湊晶子師（東京女子大学長）、ベリー・ロス師（米国ウェスレアン宣教師）
4）メッセージ・村上宣道師（PBA・OCC理事長）
5）音楽プログラム
6）案内発送、新聞広告を行う。

重ねて内容を検討しながら具体的に決定していく予定です。

◎広報委員会より　戸川偕生

広報の趣旨は、20周年を契機としてOBIの働きを広く知っていただき、OBIが福音宣教のために、教会の力となって更に発展して行くことです。具体案を検討中です。外部には、クリスチャン新聞、キリスト新聞に公告する予定です。協賛広告の案も出されています。広告掲載の時期、新聞以外の広告についても検討中です。皆様方の教会でもぜひアピールしてください。

●すでに多くの方々から献金が寄せられています。感謝します。

（実行委員長　三浦喜代子）

クラスの風景

『使徒の働き』
―キリスト教会の源流を訪ねて―

教師・副学院長　藤原導夫

このクラスは「草野球」的にやりましょうね、と学生の方々にはいつも伝えています。野球などをテレビや観客席で眺めて楽しむようにではなく、実際に自分もプレーして泥んこになり、汗を流しながらその醍醐味を味わうように、聖書の世界とその命に触れていくことができればと願っています。例えば「使徒の働き」を学生に一章ずつ担当してもらい、それをクラスの最初に発表してもらいます。そして全員で共に考え、話し合い、その中で私が交通整理役を担わせていただいています。これはまさに草野球的聖書の学びではないかと考えています。

副題は「キリスト教会の源流を訪ねて」ですが、「使徒の働き」の中で出逢う初代教会の姿に触れ、教えられたり、感動したり、襟を正されたり、という体験を共に味わっています。まさに源流を訪ねてそれに触れる体験であり、それは古きを訪ねて新しきを知る「温故知新」の営みそのものでもあろうかと思わされています。

私自身は「教えることは学ぶことである」というありがたい体験をさせていただいています。自らが仕える市川北教会の主日礼拝では数年にわたり「使徒の働き」から連続講解説教をしました。お茶の水聖書学院主催の「聖書の世界研修旅行」では、「使徒の働き」の舞台となっているさまざまな地域を訪れることができました。そのような積み重ねもあいまって皆さんと共に聖書を学ぶことにますます深い喜びと興味を覚えさせられています。そして真剣に熱心に学びに取り組んでおられる学生の方々とクラスで出会うことによる喜びや励ましを与えられていることを心から感謝しています。

『使徒の働き』
キリスト教会の源流を訪ねての学び　受講生の声

本科3年　梅澤近子

『しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまでわたしの証人となります』

使徒の働き　1章8節

4月から始まった「源流を訪ねて」の私たちの旅もいよいよ佳境に入ってきました。ペテロの「エルサレム」での働きを経て、パウロの伝道旅行がいよいよ「地の果てにまで」及んできたのです。毎回わくわく、どきどきの授業です。

私たちの旅を導いて下さる藤原導夫先生が授業の最初に、「これは21世紀の現代、私たちが大切なもの、失ってはならないものを見つける旅であり、また知るべきこと、忘れてはならないことを学ぶ旅です。」と話されました。初代教会の人たちが、自分が信ずることに命をかけ、主の証人として生きてきたこと。さらには生ける神の子キリスト御自身を深く知る旅であり、私たちが己を振り返り原点に立ち返る旅でもあることを教えられています。1章ごとに生徒が順番に責任をもって担当し、前もって学んできたことを、授業の始め20分ほどのなかで発表します。これも、どきどき、わくわくのひと時です。

また先生が各章に関連する事柄を深く、総合的に取り上げてくださるので、聖書を立体的に学ぶことができ、聖書の学びが楽しく、豊かになっていくことを体験しています。

さて、残りのローマへの旅はどのようになるのでしょうか。わくわく、どきどきです。

リサーチコース報告

プロテスタント１５０年史公開講座

「福音の底流を求めて」を主題に、増田学院長を主幹に、10回の研究・報告がされてきました。

レポーターは、熱心に１５０年の歴史の足跡を辿り、その水脈に触れた喜びと共に、御報告を賜りました。以下、既に報告された分の概略を記します。

① 増田学院長、世良田学院長代行報告ＯＢＩの歴史。

その創設から19年の歩みを振り返られた。歴史認識を新たにしました。ここに、後々ぶれない事実確認の証言を聞きました。この具体的内容は、「ＯＢＩ20周年記念誌」に記録され、後代へ継がれていくでしょう。

② 日本福音宣教の黎明（ベッテルハイムの沖縄宣教）三浦秀彌兄報告　十二カ国の語学の天才であった彼は、１８４６年４月英国聖公会の支援のもとに、医療宣教師として一家４人と共に、沖縄に乗り込んで来た。入港早々国外退去。強引に上陸、８年余りの迫害の中で、天然痘治癒、聖書翻訳、伝道とタフな日々を過ごした。聖書翻訳は、ルカ伝、ヨハネ伝、ロマ書の琉球語（口語）でした。改めて、日本本土用に和漢対訳「路加伝福音書」「馬太伝福音書」「馬可伝福音書」を翻訳されたが、後年ウィーンで発行されることになった。ペリィ艦隊でアメリカに渡ったが、多くの情報をペリィに教え、日本宣教の橋渡しをした。

付録として、「西郷隆盛はクリスチャンであった！」ことを検証した。鹿児島郷土で開かれた「敬天愛人と聖書展」（２０００年）には、南州翁愛用のものと同じ香港英華書院刊１８６５～１８６６年版漢訳聖書が展示されていた。島津斉彬に見出された西郷は西洋の文物を学習した。その中には、聖書も含まれていた。また、島津久光に代わり、二度にわたって島流し（１８５９年奄美大島）、（１８６１年徳之島）された時、琉球語口語聖書に触れた可能性も考えられる。

受洗は、参議下野する１８７４年、横浜海岸教会で、ジェームズ・バラの在任中。捧げものは、豚二頭（当時山下公園あたりで養豚していた）。その時、「私の立場を了解頂き、他言は一切無用に願います。」と覆面クリスチャンであった。

「敬天愛人」は清の康熙帝の天主堂に掲げられている言葉、彼の信仰告白であった。

③ 日本宣教の始まり報告・森登兄、石塚幸子姉

プロテスタント宣教は大きく４つのバンドを以て始められた。横浜バンド（ヘボン夫妻、ブラウン、バラなど）、熊本バンド（ジェーンズ）、札幌バンド（クラーク）、松江バンド（バックストン）。それぞれのミッションとそこで生まれた弟子達について学んだ。石塚姉より、リーベンゼラ・ミッションについて、ドイツでの誕生と日本宣教の働きについて詳しく学びました。

④ 聖書の日本語翻訳報告・須藤賢一郎師、有田貞一師

須藤師は、日本語聖書翻訳の歴史を辿って、歴史の流れと共に変わっていく聖書翻訳の実際を学びました。初め、シンガポール、次いで香港、日本と出版も変わっていった。

ギュッラフ訳、ベッテルハイム訳、ゴーブル訳、ヘボン訳、明治元訳聖書などは、漢訳聖書を底本としているところが多くある。しかし、大正改訳聖書と文語訳聖書は、漢語調から和文混交体へと変化して行った。また、ギリシャ語原典からの翻訳を試みた点は画期的であった。戦後、英米の聖書協会の協力を得て、日本人聖書学者による初めての口語訳がなされた。英語訳改定標準訳聖書が参考にされた。１９５９年、プロテスタント宣教１００年記念とし

て、聖書信仰運動を展開し、１９７３年に日本聖書刊行会から、新改訳聖書が刊行された。２００３年には、差別用語を見直し、第３版が発行されている。

有田師は、次いで「新共同訳聖書」について、詳述された。共同訳聖書とは、エキュメニズム（教会一致運動）の流れを受けて、世界各国でカトリックとプロテスタント諸派の共同作業による各国語に翻訳された聖書のこと。日本語の共同訳（１９７８年）と新共同訳（正確には、聖書新共同訳１９８７年）とには大きな違いがある。後者は原文を完全に再現するために、忠実かつ正確に翻訳する努力がなされた。しかし完全な翻訳は不可能であろう。色々の学びを通して、反復学習を通して、読者の方が変えられていくのかも知れないと思った。

⑤ミッション・スクールの創設

戸川偕生師報告

ヘボンの来日から離日までの経緯（手紙）と送別会の挨拶を通して聞きました。実弟宛の手紙では、日本宣教の志の篤さを覚えました。同時に両親への配慮も記されています。また、送別会の挨拶（日本語）からは、医業・伝道・聖書翻訳・字引編纂など、多くの働きの実を残した世界の旅人として、33年間宣教の地、日本を離れて行かれました。切々とした思いが伝わってきました。

国東恵子姉報告「新渡戸稲造と女子教育」について語られました。時代的背景から、女子教育の必要、しかも聖書による女子人格論を聞きました。人格神との垂直的縦関係による個人の完成を教えられた。また、新渡戸先生は広く世界平和に目を向けた国際人を目指しておられた。

⑥中島總一郎兄報告

「戦後に日本基督教団から独立した教団教派（Ⅰ）」についての歴的背景を通して、語られた。図解を以て、分かりやすくその流れを説明された。現在の教会の成り立ちが、総監されて役立つものでした。

加茂康一兄報告「戦後に日本基督教団から独立した教団教派（Ⅱ）」について報告された。天皇中心の神国思想と全体主義、軍国主義から解放され、日本のキリスト教復興の活気溢れる宣教伝道の報告がなされた。日本アライアンス教団、日本イエス・キリスト教団、日本自由メソジスト教団、日本アドベント・キリスト教団、日本神の国連盟、インマヌエル綜合伝道団など福音派の諸教派が取り上げられました。

⑦宮本三枝子姉報告

「聖なる使命に賭けたヘボン博士の半生」と題し、エピソードから見たヘボンの人間像が熱く語られました。１２ページに及ぶ小論でした。

吉川陽一郎兄報告２００９年夏季イスラエル遺跡発掘のレポートが映像説明されました。

⑧三浦喜代子姉報告

「福音作家・文書伝道者としての三浦綾子」を語られました。

１９６４年『氷点』で一躍作家デビューした三浦綾子は１９９９年77歳で召天するまで、夫光世氏の口述筆記によって90点に及ぶ膨大な作品を生み出した。その作品によってキリストの救いに導かれた人は数知れない。綾子氏自身、「キリストの福音を伝えたくて書いている」と公言している。

三浦綾子は書く牧師、福音作家と呼んでいいのではないか。また、クリスチャン評論家からは「救魂の文学」「愛とゆるしの文学」として高く評価されていると、レポートされました。

⑨増田師から「戦後の大衆伝道者」

⑩芳賀功師から「開拓伝道のスピリット」などが予定されています。

なお、本講座は公開講座ですから関心をお持ちの方はぜひ受講してください。

（報告　三浦秀彌）

学窓トピック

聖書科・通信コース・音楽科

○２０１０年３月卒業予定者は、本科、梅澤近子姉（東京フリーメソジスト教団）、大渕セツ姉（日本福音自由協議会）、鈴木ますみ姉（単立）、高橋まりか姉（日本同盟基督教団）、中城昭治兄（日本福音キリスト教会連合）、教会音楽科、木下美紀姉（日本アッセンブリーズオブゴッド）の６名です。聖書科本科の皆さんは、２月11日提出締切の卒業研究を進めておりますので、覚えてお祈りください。卒業式は２０１０年３月６日（土）午後１時からです。

○10月６日（火）、午後18：30より、恒例、第三回ＯＣＣ／ＯＢＩ共催による秋のボーマン・コンサートが行われました。参加者71名、大変祝された時となりました。

○11月24日（月）練馬バプテスト教会にて、教会音楽科主催、教会音楽デーが行われました。参加者23名でした。

○12月11日（木）ＯＣＣ４１６号室にて、恒例のクリスマス感謝会が行われました。参加者38名で、主のご降誕をお祝いいたしました。

○２月10日（火）８Ｆチャペルにて、教会音楽科学年末発表会が行われます。また２月26日（木）ＯＣＣ４１６号室にて、声楽科ミニコンサートが行われます。ぜひ参加してください。

○新年度（前期）カリキュラム予定は以下のとおりです。

	火	木	金
11：00～12：30	新約概論 増田誉雄	旧約聖書の思想と概説Ⅲ （預言書） 西　満	聖書の世界 飯島　勅
13：30～15：00	キリスト教説教入門 藤原導夫	ヤコブの手紙解説 世良田湧侍 研究科	聖書がわかる解釈学入門 山口勝政
15：30～17：00	ヨハネの黙示録と福音書の黙示 福井　誠	ホセア・アモス書解説 水口　功	教会史 横山　武
18：30～20：00	キリスト教人間学 堀　肇		ヘブル人への手紙を読む 河村従彦

主と教会に仕える同窓生

14期生　伊藤 洋子

ＯＢＩ創立20周年おめでとうございます。

私は14期生として２００７年3月に本科を卒業しました。その3年間は充実し、90分授業を夢中で学びました。それは何と言う豊かな時々だったでしょう。

しかし、卒業後の状況は一変し、何よりも私たちは年金生活に入り、時代はすさまじい経済不況の大波をかぶり、国という船体は大きく傾いています。すでに私共は社会的責務のほとんどから解放されていますが、子供、孫たちの世代は想像以上です。

しかし、私たちは「無くてはならぬものは唯ひとつ、神の愛に生きること」を知っています。教会に於いても、多くの教会の先生方が世代交代しました。失業者が増え、心も体も病んでいる友が多くなりました。その方々の心に届くこともできないもどかしさを感じつつ、教会はいつも明るい灯を……と、できるだけ集会に参加し、御言葉の学びと心からの交わりによって心あたためられたく、共に祈り合っています。

本科3年目に藤原導夫先生の説教学を受講しました。前年は説教学概論、夏休み明けには、いよいよ「使徒の働き」を通しての実習です。与えられた章を、クラスの中で説教するのです。互いの酷評に耐え、実に身に沁みる授業でした。ある日の午後、21章のあたりを読んでいた時、パウロ一行と彼らを出迎え、また次の旅へと送り出す弟子と信徒たち、大人も子供も家族中で使徒のために宿を準備し、食事、献金の用意と使徒と共に迫害の渦中に、主の働きに励んでいた信徒の姿に私は気づかされたのです。「もっと若い頃に救われていたら献身していたのに」と何度も考えたものです。しかし、その時、「信徒でも伝道者を支えることができる」と確信したのです。

それから数ヶ月経っての祈祷会で村上宣道先生がＰＢＡのお働きの中から、青森県鰺ヶ沢の教会のことを話してくださいました。「日本人伝道者さえ、見捨てて去ってしまった過疎の町の教会に外国からの宣教師が主のために労している」とのことでした。このお話の中で、私は「何か出来るのでは」と突き上げるものを感じました。間もなく女性会の集会で、私は皆さんにそのことをお話ししたのです。すると驚いたことに一緒にテーブルを囲んでいた4人の姉妹が「是非やりましょう」と立ち上がったのです。

それからあっと言う間に具体案が出来、毎月一人５００円の献金、となったのです。年間20万以上の献金が支援され、1年に2箇所の教会訪問をさせていただき、奉仕や清掃など、10万円の献金を携えて出かけていきます。今年は5年目を迎えようとしています。

村上先生から『バルナバの会』と名づけていただきました。この会の唯一の決め事は、「献金をお運びする者たちは全て手弁当で参加する」ということです。

これからも主と教会と信徒の間に立って「破れ口」にすぐさま駆けつける者となって主に用いられたく願っています。

ご報告

第4期生の佐野謙次兄は昨年10月14日に天に帰られました。ＯＢＩが自立を迫られていたとき、増田師の片腕となって支えられた方でした。ＯＢＩが今日あるのは兄の愛の偉業に寄るところ大であります。

兄はいつもＯＢＩに信仰と能力と知恵と経済力を注ぎ尽くされました。まさにＯＢＩスピリット《主と教会に仕えた同窓生》でした。

OBI会計報告

【業務概要】

今年度第9期前半期の会計報告をいたします。今年度は会計をコンピュータソフトの「弥生会計」に移行いたしました。会計の指導も外部にお願いしております。例年のように予算総会以来前半期の末（8月）までの集計は、ほぼ予算に沿った出費となっております。OBIの使用する教室と事務所、教師室等すべてOCCCからの借室ですので、このための経費は人件費とともに2大支出となっております。こうした費用は学費だけでは賄いきれず、皆様方の篤志献金によって支えられていますことを感謝申し上げます。今後とも覚えてお祈りとご協力をお願いいたします。

お茶の水聖書学院は、キリスト教会の多数を占める信徒を対象とした聖書教育のプログラムを展開しております。2005年4月より開設した聖書科通信コースで昨年初めて卒業生を送り出すことができました。さらに新年度は、学習環境の整備のため、OCC208号室に、書架を設置、図書の充実に努めてまいります。これらの働きの必要が与えられておりますことを感謝しつつ報告いたします。

第9期上半期収支決算報告

09年3月～8月　（単位：円）

収入	年間予算案	前期収入実績
学事収入	9,600	4,940
行事収入	700	0
献金収入	12,000	10,883
助成金収入	3,000	3,000
その他収入	0	20
収入計	25,300	18,843
支出	年間予算案	前期支出実績
学事支出	10,500	2,868
行事支出	800	23
経費支出	13,400	7,372
その他の支出	600	101
支出計	25,300	10, 364
第9期上半期収支差額		8,479

OBI献金ご芳名録（2009・8・19～12・15）

▽OBI協力献金

中島總一郎
小玉久美子
戸川偕生　大渕セツ
玉松陽子
南澤貴美子
川端安弘　田畑勝敏
シムス・由季子
横田孝子　三浦秀彌
倉内一寿　高野富男
山口松子　南澤孝夫
真野悦子　JEMA　萩原滋
石井由紀　鬼京由起子
藤村陽子

▽夏季献金　生田今日子（8・20）

▽クリスマス献金

南澤孝夫・貴美子　稲垣緋紗子
西満　伊藤淑美　藤原導夫・智子
世良田湧侍　感謝会出席者全員

OBI後援会報告

長い間の継続献金深く感謝します。今後ともよろしくお願いします。

今年も維持献金の新規申込者を募っています。御自分の郵貯銀行預金口座から、自動振替の手続きをしていただけるとたいへん感謝です。金額は一口千円からです。

ご賛同、ご協力いただける方には所定の申込書をお送りします。事務局までご一報ください。

◎後援会維持会員（個人）

有田貞一・有田美栄子
飯島多稼夫　猪狩友行
小野沢恵子　金本悟　木下順子
国東恵子　窪井節子　小林喜久男
斉藤とし子　佐藤敬　佐野謙次
佐野寿美子　須子都　関節子
世良田湧侍　田中恵子　中川和代
浪井弘子　西満　平松庸一
福井誠　藤原導夫　増尾善文
増田誉雄　松岡常子三浦喜代子
三浦秀彌　宮本三枝子
目崎由紀子　森登　森本馥
依田和子　植木朋子　芳賀功
中島總一郎　日名富子

◎後援会協力献金

羽鳥明　脇坂勇　原正子
中山キリスト教会
横浜上野町教会

▽20周年献金者

20周年諸行事のために貴いご支援を賜りありがとうございます。引き続きよろしくお願いします。

目崎由起子　永井みよ子
小林喜久男・正枝　砂谷智枝
三浦喜代子　長橋和彦・晴子
門馬正衛　中島總一郎　須子都
藤原導夫・智子　増田誉雄
阿部幸平　米田由起子
飯島多稼夫　黒沢すぎの
飯島延浩　梅澤近子　大渕セツ
鬼京由起子　脇坂勇　中島和子
田畑勝敏　飯田みか
山本しずか　佐藤敬　三浦秀彌
芳賀功　堀肇　福井ちよ
日名富子　東利雄　杉山礼子
宮本三枝子　宮内芳枝
玉松陽子　吉村瑠美子　金本悟
窪田淳子　森本馥　世良田湧侍